

美作産木材の良さを見直す時期



津山市森林組合 代表理事組合長 西本 健三さん

実は、津山高専では、地元企業に就職する卒業生が非常に少ないのが現状です。そこで、地元企業への就職を促すためにも、産学官連携による商品開発を行うことと併せて、学生が地元企業のことを知る機会を作る必要があります。

企業と学生が、ざつくばらんに意見交換のできる場を作り、産学官連携教育を推進したいと思っています。

津山市の取り組み

市長 県北は、県南に比べて人口の減少が顕著です。津山で生まれ育ち、学校を卒業しても働く場がなければ、これからの津山を担う若者が流出してしまいます。

市では、平成24年度から「定住推進室」を設けて、若者と企業とを結

びつけるため、新卒・既卒者向けの就職面接会や就職希望者のスキルアップを目的にした研修会を開催しています。

企業誘致については、津山産業・流通センターの分譲を促進するため、土地代補助制度の適用条件を緩和するなど、企業立地に係る優遇制度を拡充しています。

また、現在、将来に向けて持続可能なまちづくりを進めるため「農業」「ものづくり」「観光」「再生可能エネルギー」の4つを柱にした津山市成長戦略の策定を進めています。今回、皆さんから伺った話も参考にしたいと思っています。

産学官連携を一層強化し、さまざまな分野の人が意見を出し合うことで新しいアイデアや新商品が生まれたいと思っています。行政が積極的にサポート

トすることで連携が具体的に進むと考えています。

津山の将来像や展望、夢

牧野 中心市街地を活性化するためには、アルネ・津山と周辺商店街の連携が不可欠です。そのためには、バスなども乗り入れができる奴通りから鶴山通りにかけて東西方向に抜ける道路の整備が必要だと思っています。昨年、城東地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されたこともあり、中心商店街と城東地区を結び付け、人の流れを作ることが大切だと思っています。

そして、津山城の天守復元も、わたしの大きな夢です。

田村 産業振興においても情報発信は重要です。今あるものを生かしながら「津山といえば、これだ！」というものを作り、情報を発信していけば、若者が郷土に誇りを持ち、定住促進にもつながると思っています。また、津山を中心とする県北地域は、大きな自然災害の発生が少ないといわれ、高速道路も整備されているので、暮らしやすいまちだと思います。そういった情報を発信することで、工業団地などへの企業誘致が促進できると思います。

雇用の確保ができれば、人口の増加につながり、商工業者にも活力が生まれます。ひいては、それが地域経済への波及効果になると思います。



親密な産学官連携で新たな開発



津山工業高等専門学校 校長 則次 俊郎さん

最上 津山地域は吉井川の清流と肥沃な土地に恵まれた地域です。また、気候も北部は冷涼で、南部は寒暖の差があり、さまざまな農作物が生産されています。そのことを生かして、万一、食糧不足に陥っても、地域内で自給ができる自給圏が津山市を中心に形成できれば良いと思っています。

また、J Aつやまには、小水力発電所が2カ所あり、現在、これを再運転する準備を進めています。国のエネルギー政策が見直された今、再生可能な自然エネルギーを活用することは、地域にも活力を与えることができると思っています。

今こそ、地方や農村が見直される時期ではないかと思っています。

西本 これからの林業は循環型林業

を目指すべきです。循環型林業とは、木を植え、森を手入れし、木材を伐採し、有効に利用することです。このようにすることで、林業に新たな雇用が生まれます。さらに、新しい木を植えることで地球温暖化防止機能が回復し、地球にも優しい環境づくりができると思っています。

さらに、最近では、林業に関する研究会が盛んに行われ、林業に興味を持つ若者が増えてきました。これは、わたしたちにとって明るい兆しです。また、学生の社会参加を進めたいですね。学生が、今まで関わることのなかった分野や地域に出て行き、さまざまな体験をすることで、学生

津山高専を、さまざまな分野や産業との連携が盛んな学校にしたいと思っています。

の目線から、新しい発想や技術などが生まれる可能性があります。さらに、津山高専はシンガポールやマレーシアなどから多くの留学生を受け入れていて、留学生の数では全国の高専でもトップクラスです。このことを活用し、人材や技術の交流を進めれば、岡山県の地方都市である津山市が、国際都市・津山市になる可能性を秘めています。

市長 津山産業・流通センターは、昨年6月に、企業立地に関する優遇制度を拡充したこともあり、立地率は50%を超えました。今後も一層、企業誘致に力を入れていこうと考えています。

中心市街地の活性化は、津山駅北口広場の整備など都市基盤の再整備と中心部の生活環境を整えることを

基本的な柱として、長期的かつ継続的に進めていきます。

農業は、津山の産業を支える大きな柱の一つです。「生産」「流通」「消費」のネットワークづくりを進め、地産地消を促進していきます。また、津山城の天守復元は、わたしの大きな夢ですが、実現に向けて、機運を醸成していきたいと思っています。

津山市の商工業・農林業において津山らしさ（強み）を見つけ出し、それを全国に発信していく戦略的な計画を具現化していくことで、産業が成長し、雇用も創出できると思っています。

そのためには、皆さんと知恵を出し合いながら、市政を進めていく必要があります。今後とも、ご協力をよろしく願います。

産業の振興で津山を明るく



津山市長 宮地 昭範